



## 主任コラム2月号

主任 澤井 良子

1月に入り、子ども達は生活発表会に向けて保育士と一緒に取り組んできました。2歳児は、生活の中でできるようになったことや、言葉のやり取りなどを取り入れた劇でした。おにぎりの劇では、自らなりたい具の帽子選び、毎日戸外で被る帽子の着脱などをみていただきました。

幼児クラスは、劇とダンスを選択し、劇は「ガラガラドン」のお話を小さいヤギから順番に年齢別で構成しました。年少さんは、保育士の手を借りながらやり取りし、年中、年長さんになるにつれて自分たちでやり取りをして劇を進めていました。当日を迎えるまでに、劇やダンスにおいて子ども達の中にも色々な気持ちの葛藤や頑張る姿がありました。ある子は、やりたい気持ちはあるけれど「人にみられる」という事がとても苦手で、練習がたつらなくなっていました。その子がつらい思いをせずに生活発表会という行事に参加するにはどうしたらいいのか、思いを聞きたくて話しをしてみました。「見られるのが苦手だったら先生と道具を出す事や、お友達が劇をしやすいうようにすることを一緒にやってみない？」と聞くと『それならやれる！やりたい！』と言い、先生達も「その子がやりたいことをやれるのが1番だね」と一緒に準備をして役名もつけてくれました。それからその子の表情もにこやかに練習にも参加できるようになりました。他にも、不安が強い子には、安心できるようにその子の好きなマークを小道具と一緒につけてみました。そのやり取りや毎日の姿を私はみていたので、本番の子ども達の姿を陰からみていて感動や成長で胸がいっぱいになりました。今回の生活発表会では、一番子ども達自身が楽しんで参加している姿を本番の日に見ていただけたと思います。なにより演目が終わった後に、子ども達が「楽しかった」「またやりたい」と言っていた言葉が一番だと思います。保護者の方もお忙しい中ご参加くださりありがとうございます。また、たくさんの拍手を頂き、子どもたちも保育士もとても温かい会場の雰囲気にも包まれたように感じました。

行事が好きな子もいれば苦手な子もいます。保育士でも一緒です。行事や製作が得意な先生もいれば苦手な先生もいます。でもそれ以外なら得意なことはあるよ！という先生もいます。色んな人がいて、時には裏方で支えてくれるから、表で発揮したりする人もいるのだと思います。そしてそれがうまく混ざりあい助けあったらいいチーム・仲間となっていくと思います。私自身も主任という立場ですが、特技となるものや、人より優れているところはありません。けれど、たくさんの特技をもった先生達がこの園には集まっているので助けられています。大人の世界でも同じように、子どもの中にも舞台に立つのが好きな子や、裏で支えることが好きな子もいます。それぞれ思いをもっていることを大切に、その子とその子らしく輝ける場を私たちは行事にしても考えて行かなくてはならないなと思いました。

1月15日・16日と東京のリーダー研修に参加しました。全国からの副園長・主任保育士が集まり、講義やディスカッションをしました。その中でも理念にそってということが多く議題にあがりました。ながさわ保育園の理念は「子どもの最善の利益を常においた保育の実践」「地域、地域の人々、地域の子どもたちのしあわせ（福祉の増進）のためのあらゆる努力」です。保育士の為でも、大人の為でもなく、子どもにとって何が1番大事なのかを考えながら行事や保育を、職員みんなで考えていきたいと思っています。

